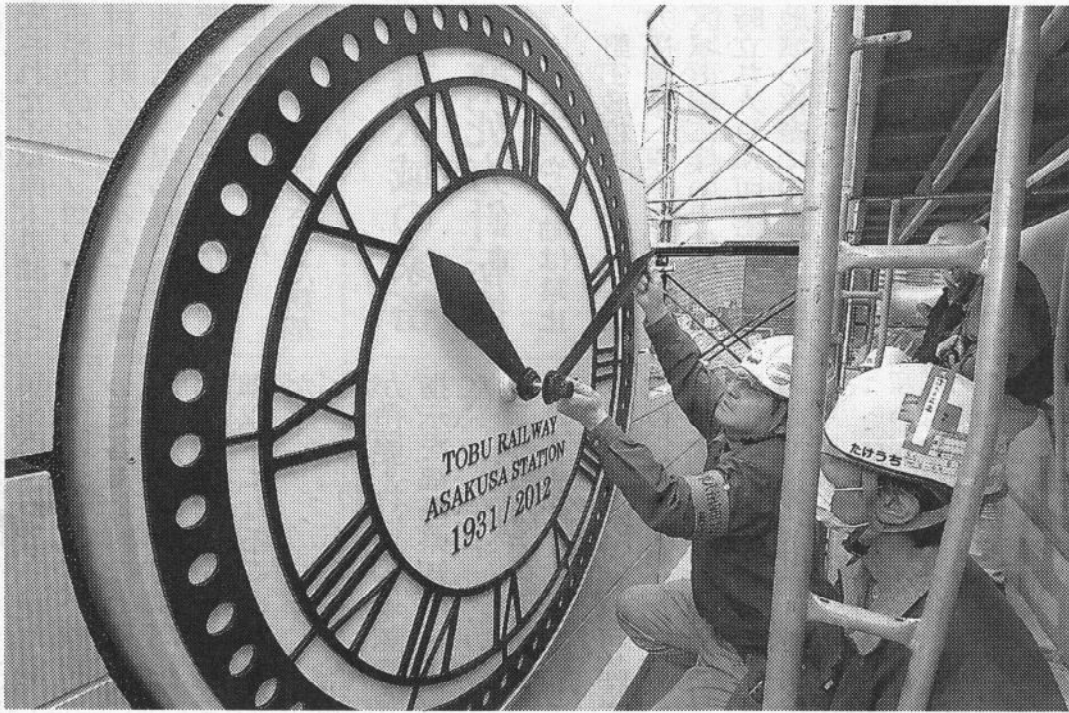


浅草の玄関に大時計

東武駅舎に70年ぶり復活へ

浅草の玄関口に大時計が復活する——。東武鉄道は 5日、改装中の浅草駅（東京都台東区）屋上の塔屋に



針が取り付けられた東武鉄道浅草駅の大時計
115日午後、東京都台東区、吉本美奈子撮影

大時計を設置した。太平洋戦争時に撤去されて以来、およそ70年ぶり。工用の仮囲いが外れる4月下旬、一般にお披露目される。

東武鉄道は1931（昭和6）年に「浅草雷門駅」を開業し、45（同20）年に「浅草駅」となった。

当時、欧州で流行したアールドコ様式を採り入れた駅舎は「モダン」と評判だった。鉄骨鉄筋コンクリート7階建てで、3階より上は百貨店の松屋が営業。日本で初めて屋上遊園地がオープンしたことも知られ、戦前はロープウェイもあったという。

東武鉄道は5月のスカイツリー開業に合わせ、昨春から浅草駅を改修。開業時のテラコッタ（素焼き）の外壁を模した駅舎にする計画で、高さ37メートルの塔屋には直径1・5メートルの時計3個を取り付ける。開業当時から3方向に設置されていたが、太平洋戦争時に何らかの理由で取り外されたという。

台東区立下町風俗資料館の研究者、石井広士さんは

「大きな建物に時計塔があり、東京のシンボリック的存在だった」と振り返る。

大時計は4月下旬にお目見えの予定で、夜はライトアップも予定している。東武鉄道の藤代孝一・ビル事業部課長は「新しい駅舎のシンボルになるような時計に仕上げた」と話す。レトロな駅舎に映えるよう文字盤はシンプルに。時計の外周は鉄道の車輪をイメージしたという。（羽賀和紀）